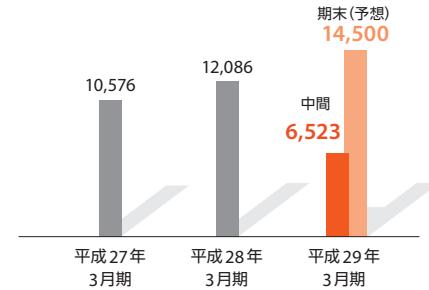




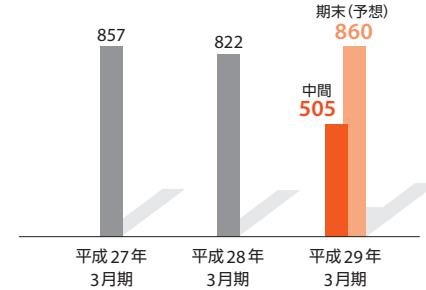
## 財務ハイライト

各グラフ(1株当たり年間配当金を除く)の数値は、平成27年3月期は単体決算数値を、平成28年3月期より連結決算数値を記載しております。

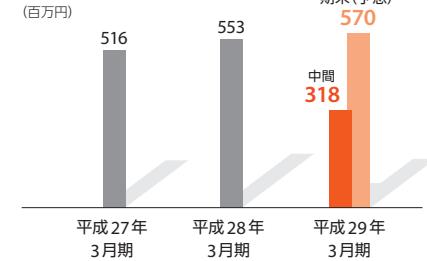
### 売上高 (百万円)



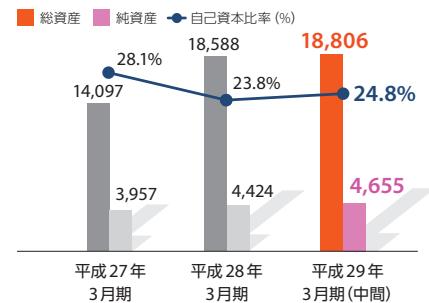
### 経常利益 (百万円)



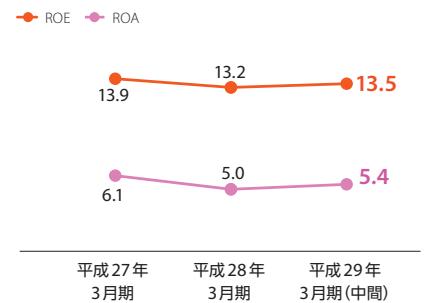
### 親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)



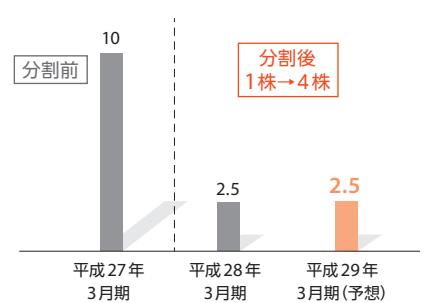
### 総資産・純資産 (百万円)



### ROE・ROA (%) ※1



### 1株当たり年間配当金 (円) ※2



※1 ROE, ROAともに直近4四半期の数値で算出しています。

※2 平成27年9月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行いました。平成27年3月期については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しています。

## トップインタビュー

平成28年12月、  
当社は創業20周年を迎えました。  
これも数多くのお客様と株主の皆様の  
長年にわたる温かいご支援のおかげと  
深く感謝申し上げます。  
これからも皆様のご期待に  
お応えできるよう、  
さらなる成長を目指してまいります。

当第2四半期連結累計期間の業績および  
通期見通しについてご説明します。

代表取締役社長  
田中邦裕

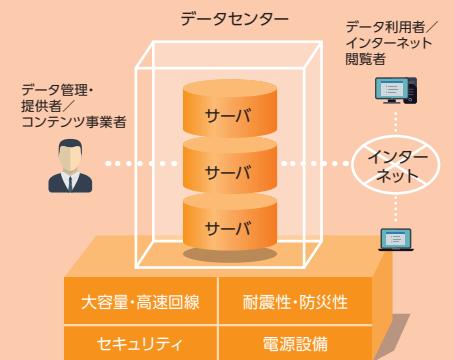
## はじめに データセンター事業とは

インターネットで閲覧するホームページや動画、ゲームなど膨大なデータは、「サーバ」と呼ばれる大容量コンピュータに保管されています。

安全で快適なインターネット環境をユーザーに提供するためには、大容量・高速の通信回線を確認し、高度なセキュリティと堅牢な設備環境を備えた専用施設(データセンター)でサーバを管理する必要があります。

さくらインターネットは、日本のイン

ターネット創成期からデータセンター事業を展開しており、通信環境を左右する回線容量は、国内事業者では最大級。お客様のサーバを当社データセンターでお預かりする「ハウジングサービス」から、当社所有のサーバをインターネット経由でご利用いただく「ホスティングサービス」まで、お客様の多様なニーズに対応できる幅広いサービスを提供することで、安定した成長を実現しています。



### Q. 平成29年3月期上半期決算の概要について教えてください。

平成29年3月期上期決算は、売上高が前年同期比10.8%増の6,523百万円、営業利益が同20.5%増の588百万円、経常利益が同21.1%増の505百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益が同14.8%増の318百万円と増収増益となりました。

### Q. 売上高が伸びた要因は何でしょうか？

VPS・クラウドサービスが順調に拡大しました。また、レンタルサーバサービスや専用サーバサービスも堅調に推移した

ことが主な要因です。ただ、まだまだ伸びが足りないと感じており、今後は特に営業面に注力してまいります。

### Q. 利益面では期初予想を上回る結果となりましたが、その要因は何でしょうか？

前期に引き続き、この上期もエンジニアの増員や新卒社員の採用、石狩データセンター3号棟の建設など、将来の成長に欠かせない先行投資の費用増加を想定しておりました。上期は増収によってこれらの費用を吸収できたことに加え、各種投資タイミングや広告宣伝の実施時期の見直しなどで費用

減となり、結果として利益が期初予想を上回ることとなりました。下期は計画通り先行投資を実行する方針ですから、通期ではほぼ計画どおりの着地となる見通しです。

**Q. 平成29年3月期の通期業績見通しに変更はありませんか？**

期初予想を据え置き、売上高は前期比20.0%増の14,500百万円、営業利益は同8.6%増の1,060百万円、経常利益は同4.6%増の860百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が同3.0%増の570百万円と増収増益を見込んでいます。年間配当については、前期と同水準の1株当たり2.5円を予定しており、現時点で変更はありません。

**Q. 今後の成長イメージについてご説明ください。**

これまで以上に成長を加速できると考えています。その最大の要因は、外部環境が非常に強い追い風となっている

ことです。IoTやAI（人工知能）<sup>\*1</sup>、ロボットなどの成長分野が注目を集め、ITの進展によって新しい価値や需要が次々と生まれる時代の到来が近づいてきました。そして、デジタルトランスフォーメーション<sup>\*2</sup>という概念の浸透により、国策としてこの分野を強化し、国内産業の転換、ひいては日本産業の国際競争力や経済成長率を高めていこうとする動きが活発化しています。

**Q. そのような環境変化の中で、どのような役割および優位性を発揮していくのでしょうか？**

あらゆるモノがインターネットにつながるIoT時代の到来やAI（人工知能）の高精度化により、取り扱うデータ量およびその処理量が飛躍的に拡大する傾向にあります。当社はデータセンターを軸としたインターネットインフラサービスの提供を通じてその基盤を支えるという役割を担っています。そして、それは、高速で性能の良いコンピュータを安価で

手軽に提供する、という私たちの基本的価値でもあります。

当社がその稼働環境を提供した将棋ソフトPonanzaが、「将棋電王戦」という大会でプロ棋士を相手に勝利しました。これは、高い性能と処理能力のコンピュータを得た者が勝者になるという世界のルールが間近に迫っていることの身近な例です。当社は、まさにそのルールを制するに不可欠な基本的価値の強化に経営資源を集中する戦略をとってきました。そこが同業他社に対する競争優位性の源泉になっています。

関連して、平成28年9月に提供を開始した「高火力コンピューティング」は、高性能な物理サーバをクラウドのようにシンプルな手順で手軽に利用できるサービスであり、大量の計算資源を圧倒的なコストパフォーマンスですぐに利用できる場所が強みとなっています。

**Q. 市場の拡大を自社の成長に取り込んでいくための戦略について教えてください。**

私どもの基本的価値であるインターネットインフラサービスの導入を増やしていくためには、それを活用して新たな付加価値を創出するパートナーのさらなる確立が必要です。当社は付加価値の開発を手掛けるさまざまな企業とのパートナーシップを積極的に活用し、二つの価値が一体となり成長を実現する戦略を推し進めています。

平成28年度中に提供開始予定の「さくらのIoT Platform」は、通信環境とデータの保存や処理システムを一体型で提供するものですが、各企業が開発するさまざまなIoTサービスの早期実現を可能とするインフラサービスに仕上げました。また、事業化支援の取り組みとして、シャープ株式会社が主催するIoTベンチャー企業向け「モノづくり研修」へ本サービ

ス(β版)を使った支援を開始しています。今後もさまざまな提携先とのWin-Winの関係づくりに取り組むとともに、ベンチャー企業の事業化をサポートすることで当社自身の成長に結びつけていきたいと考えています。

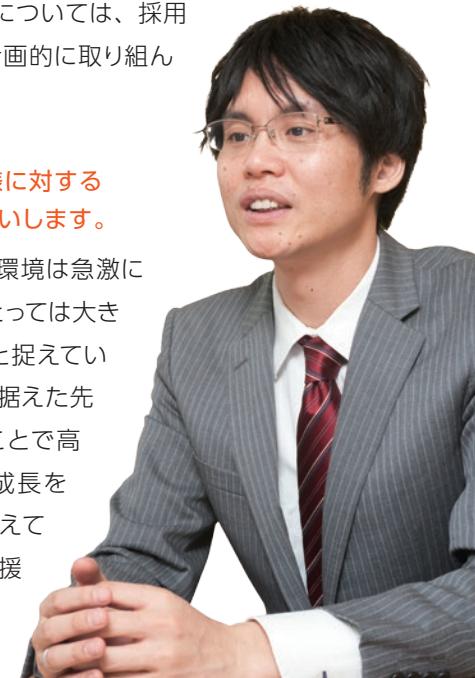
**Q. 新たな成長分野への取り組みの業績貢献の見通しをどうお考えですか？**

来期以降、着実に軌道に乗ってくるものと見込んでいます。石狩データセンター 3号棟も平成29年春には稼働開始を予定しており、それも成長実現の後押しとなります。少なくとも現在の水準を大きく超える成長を加速していきたいと考えています。

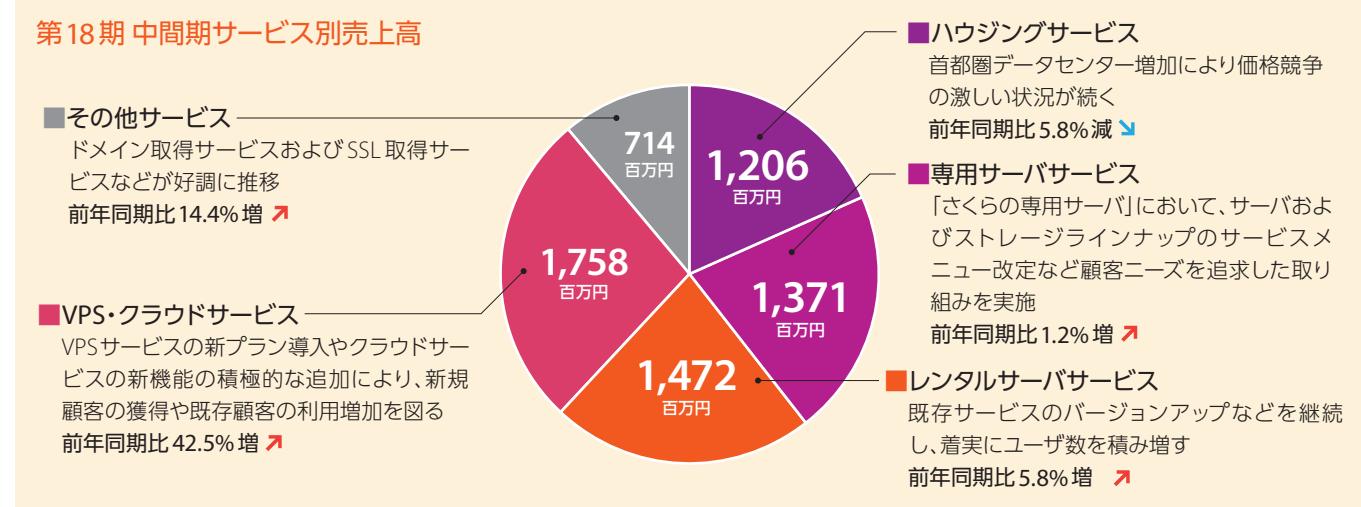
一方、不安要因を挙げるとすれば、人材の確保ということになりますが、その点については、採用および育成の両面で計画的に取り組んでいきます。

**Q. 最後に株主の皆様に対するメッセージをお願いします。**

当社を取り巻く外部環境は急激に変化しており、当社にとっては大きく成長できるチャンスと捉えています。従って、将来を見据えた先行投資を着実に行うことで高い水準での持続的な成長を目指していきたいと考えています。今後ともご支援のほどよろしくお願いたします。



\*1. 5ページ以降の特集「新たな成長分野への取り組み」をご参照ください。 \*2. 「ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という概念

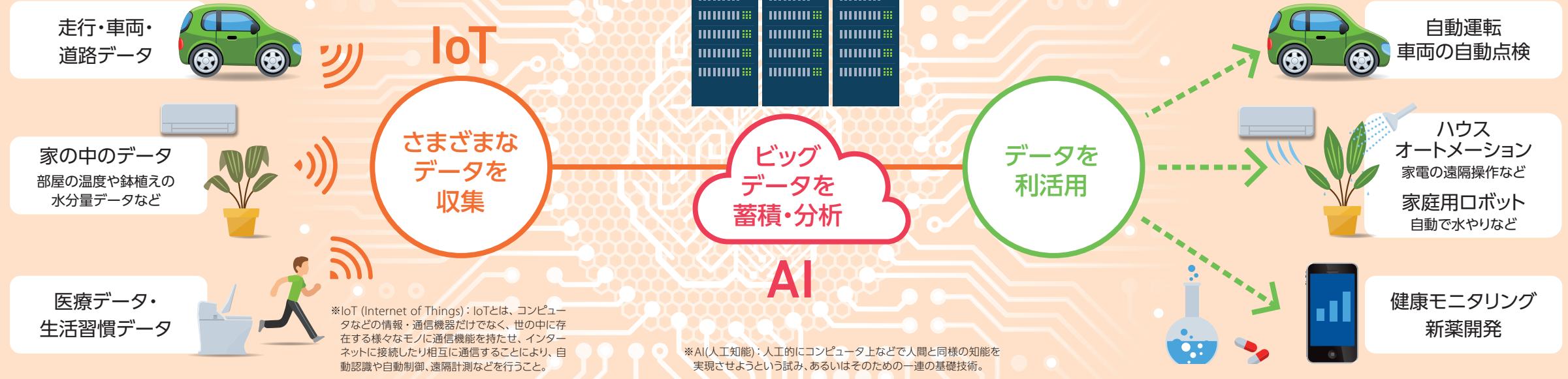


IoT・AI技術の進展により私たちの暮らしはますます便利に。  
データセンターはその発展に必要な存在です。

IoT・AIで実現する身の回りの近未来



例えば…



IoTやAIなどの技術の進展により、近い将来、ありとあらゆるモノがインターネットにつながり、人間の脳のような知的活動をコンピューティングリソースで行うようになると、膨大なデータがデータセンターに集められ、蓄積され、分析処理される時代が到来します。

データで見るインターネットの成長予測



※上記平成32年および平成37年の予測数値の出典:総務省 情報通信白書 平成26年、27年度版

平成37年  
コンピュータの性能  
人間の脳を  
シミュレーション可能

国内データセンター専門事業者市場予測



※出典:IDC Japan, 2016年9月「国内通信事業者/DC専門事業者のデータセンターサービス市場予測 2016年~2020年」(JP) 40600516)

## Topic 1 IoTサービスの開発 「さくらのIoT Platform β版」の提供開始

「つなぐ・ためる・活用する」を手軽で安価に提供、パートナーと共にIoT市場を拡大

### 「さくらのIoT Platform」の特長

- ☑ 開発負担の大きい「通信⇄データ連携」をカバーし、顧客の事業化を支援・促進
- ☑ IoTパートナーと新たなサービスを共創し、市場を開拓
- ☑ データの蓄積や交換による収益化

当社は、平成28年11月より「さくらのIoT Platform β版」の提供を開始しました。これはモノとネットワークでデータを送受信するための通信環境、データの保存や処理に必要なシステムを一体で提供するIoTのプラットフォームです。お客様がIoT製品やサービス実現に必要な基盤構築の工程を削減。今までと同じ知識領域でモノづくりとサービスの構築に注力することを可能とし、さらに開発・運用コストを削減することができます。

正式版のリリースは平成28年度中を予定しております。

## Topic 2 IoTパートナーとの取り組み さまざまなIoTサービスをパートナーと着実に具現化

IoTサービスの開発に取り組むさまざまな企業とオープンに連携、自社の強みを活かしたサービスを展開

### EverySense, Inc.とIoTデータの相互利用の検討を開始

IoTデータの流通を手がける米国エプリセンス社のデータアクセスチェンジプラットフォームと、「さくらのIoT Platform」を接続し、業種、業界を超えたIoTデータの相互接続、交換の実現を目指します。

### 株式会社ABEJAとプラットフォームの相互接続で連携

ディープラーニングを活用し産業構造の変革をサポートするABEJA社と提携。平成28年冬を目処に「さくらのIoT Platform」と「ABEJA Platform」をAPI経由で接続し、両社のお客様が双方のプラットフォームをご利用いただけるようになります。

### 株式会社tsumugと賃貸物件向けスマートロックのサービス・プロダクトを共同開発

当社と株式会社システムソフトとの合弁会社S2iは、不動産業界に特化したスマートロック開発を行うtsumug社と業務提携し、賃貸物件向けスマートロックのサービス・プロダクトの提供に向けた共同開発を推進します。



スマートロック  
通信モジュールを活用し、遠隔地からの施錠・解錠が可能

### シャープ株式会社とIoTベンチャー企業向け研修を支援

シャープ社主催のIoTベンチャー企業を対象とするモノづくり研修「SHARP IoT. make Bootcamp supported by さくらインターネット」を株式会社ABBALabと共に支援します。

当社はIoT時代に必須となるソフト・サーバ技術およびプラットフォームなどを、「さくらのIoT Platform β版」を基に説明。本研修を通じ、ベンチャー企業の事業化を支援し、潜在パートナーの開拓を推進してまいります。

### ハウステンボス株式会社のIoTへの取り組み

ハウステンボス社では、さくらインターネットのIoT通信モジュールを活用し、パーク内のごみ箱にごみの蓄積量を計測するセンサーを取り付け、自動的に回収する仕組みについて、実証実験を行う予定です。



ハウステンボスのごみ箱

## Topic 3 計算資源ニーズの高まりに応えるサービスをリリース 「さくらの専用サーバ 高火力シリーズ」の提供を開始

大量の計算資源を必要とするAIなどの技術分野のコンピューティング需要の高まりに対応

### 高火力コンピューティングサービスの特長

- ☑ 長年のサーバ運用によるノウハウ・技術力
- ☑ 垂直統合型の社内体制を活かしたニーズへの即応力
- ☑ 国内トップクラスのバックボーンによるスピード・安定性
- ☑ 大規模でコスト効率の高いデータセンターが提供する拡張性・低価格

当社は、平成28年9月30日より「さくらの専用サーバ 高火力シリーズ」の提供を開始しました。

IoT、AI（人工知能）、ビッグデータ、ロボットなどの技術分野の急速な進展により、計算資源に対する需要はかつてないほどの高まりを見せています。当社は、これらの技術が求める大量の計算資源を高いコストパフォーマンスで利用できる一連のサービスを「高火力コンピューティング」と位置づけ、国内有数のキャパシティを誇る石狩データセンターを基盤にサービス開発を進めてまいりました。

当シリーズは、高性能な物理サーバをクラウドのようにシンプルな手順で手軽に利用できる「さくらの専用サーバ」の基盤を活用し、計算資源用に最適化したサービスです。8月31日からの無償トライアルでは、大きな反響をいただきました。平成28年12月末までにより多様な用途に対応できるNVIDIA社最新GPU搭載モデル2種の提供を開始、平成29年3月末までに、現在の月額課金に加え、小規模・短期間の利用にも柔軟に対応できる時間課金制の導入を予定しています。

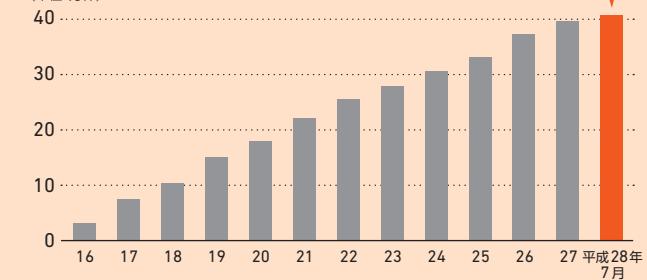


## Topic 4 レンタルサーバサービスの拡大 「さくらのレンタルサーバ」契約件数40万件突破

国内トップクラスの契約件数で継続成長

「さくらのレンタルサーバ」は、平成28年7月をもってサービス開始から12周年を迎え契約件数が40万件を突破いたしました。「さくらのレンタルサーバ」は、月額129円から利用できるコストパフォーマンスの高い共用ホスティングサービスとして、個人からSOHO、中小企業はもちろん、学術系や官公庁など幅広い皆様にご愛顧いただいております。

「さくらのレンタルサーバ」契約件数の推移



■連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

科目	前期 平成28年3月31日現在	当第2四半期 平成28年9月30日現在
資産の部		
流動資産	6,185	4,944
固定資産	12,402	13,862
有形固定資産	10,719	11,931
無形固定資産	1,065	1,244
投資その他の資産	617	686
資産合計	18,588	18,806
負債の部		
流動負債	6,068	6,287
固定負債	8,095	7,863
負債合計	14,164	14,150
純資産の部		
株主資本	4,424	4,655
資本金	895	895
資本剰余金	0	0
利益剰余金	3,528	3,760
自己株式	△ 0	△ 0
純資産合計	4,424	4,655
負債及び純資産合計	18,588	18,806

■連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 平成27年4月1日から 平成27年9月30日まで	当第2四半期 平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	687	1,447
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 542	△ 2,165
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 158	△ 412
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△ 0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 13	△ 1,131
現金及び現金同等物の期首残高	3,139	4,077
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,126	2,946

■連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 平成27年4月1日から 平成27年9月30日まで	当第2四半期 平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで
売上高	5,885	6,523
売上原価	4,242	4,535
売上総利益	1,642	1,987
販売費及び一般管理費	1,154	1,398
営業利益	488	588
営業外収益	5	9
営業外費用	76	93
経常利益	417	505
特別損失	2	16
税金等調整前四半期純利益	414	488
法人税、住民税及び事業税	141	173
法人税等調整額	△ 4	△ 2
親会社株主に帰属する 四半期純利益	277	318

■会社概要

(平成28年9月30日現在)

設立	平成11年8月17日
資本金	8億9,530万円
従業員数	380名(連結)
本社	〒541-0054 大阪市中央区南本町一丁目8番14号 堺筋本町ビル9F TEL (06) 6265-4830 (代表)
東京支社	〒160-0023 東京都新宿区西新宿七丁目20番1号 住友不動産西新宿ビル33F TEL (03) 5332-7070 (代表)

■役員一覧

(平成28年9月30日現在)

代表取締役 社長	田中 邦裕
取締役	川田 正貴
取締役	辻 壮
取締役	伊勢 幸一
取締役	畑下 裕雄
取締役	猪木 俊宏
常勤監査役	野崎 國弘
監査役	川村 和久
監査役	梅木 敏行
監査役	長谷川 浩之

※取締役 畑下裕雄氏、猪木俊宏氏は、社外取締役です。  
※監査役 梅木敏行氏、長谷川浩之氏は、社外監査役です。

■株式の状況

(平成28年9月30日現在)

発行可能株式総数	99,200,000株
発行済株式の総数(自己株式444株を除く)	34,709,956株
株主数	17,191名

■大株主の状況

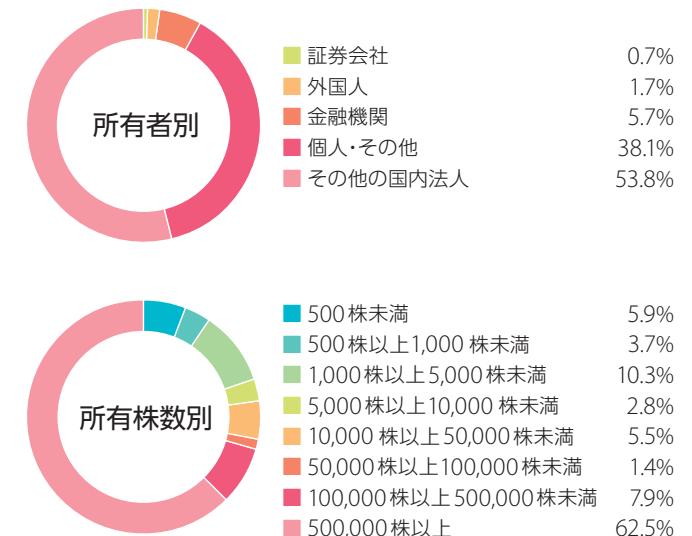
(平成28年9月30日現在)

株主名	持株数 (100株)	持株比率 (%)
双日株式会社	139,856	40.29
株式会社田中邦裕事務所	44,896	12.93
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	11,034	3.17
鷺北 賢	10,960	3.15
田中 邦裕	10,064	2.89
さくらインターネット従業員持株会	3,904	1.12
菅 博	3,316	0.95
大下 悟	2,215	0.63
澤田 千博	2,138	0.61
孫 小蕾	2,136	0.61

※持株比率は、自己株式444株を控除して計算しております。

■株式分布状況

(平成28年9月30日現在)



## ■株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

基準日 定時株主総会の議決権 毎年3月31日  
期末配当 毎年3月31日  
中間配当 毎年9月30日

お取扱窓口 お取引の証券会社等。特別口座管理の場合は、特別口座管理機関のお取扱店。

特別口座管理 みずほ証券、およびみずほ信託銀行  
機関お取扱店 フリーダイヤル 0120-288-324  
(土・日・祝日を除く9:00～17:00)

未払配当金の お支払 みずほ信託銀行 本店および全国各支店  
みずほ銀行 本店および全国各支店  
(みずほ証券では取次のみとなります)

公告の方法 電子公告により、当社ホームページ(※)に掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

(※)<https://www.sakura.ad.jp/>

## 将来の予想について

本報告書に記載されている、将来に関する予想については、現在入手可能な情報から当社経営陣の判断にもとづいて行った予想であり、実際の業績は、さまざまな要素により、これらの予想とは異なる結果となる場合があることをご承知おきください。



## WEBサイトのご案内

<https://www.sakura.ad.jp/ir/>

さくらインターネットの「株主・投資家情報」は、こちらのURLからご覧になれます。

